

2015年度 C日程 【社 会】

1

問 1 【歴史分野】 (1) 樋口一葉 (4点)

解説 現行の五千円札の表紙に描かれた人物を答える問題である。一般常識ではあるが、「樋」の字に注意を払いたい。常用で使用されている3画の“しんによう”ではなく「讠」(4画)が使用されている。

【地理・公民分野】 (2) 紫式部 (4点)

解説 現行の二千円札の裏面に描かれた人物を答える問題である。二千円札を見る機会は少ないと思われるが、空欄前にある「『源氏物語』の作者である」という言葉から判断すれば、解答は容易である。

問 2 【地理分野】 南東 (3点)

解説 地図記号と八方位を、正しく理解できているかを問う設問である。地図記号については、右上から時計回りに、神社、郵便局、消防署、美術館、寺院を表わしている。

問 3 【地理分野】 (1) 名古屋{市} (3点)

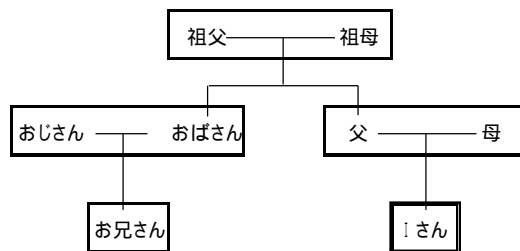
解説 愛知県の県庁所在地を答える問題である。県名と県庁所在地名が異なるものは、入試において何らかの形で問われることが多い。その場所とともに確認をしておきたい。

【歴史分野】 (2) (小倉)百人一首 (3点)

解説

問 4 【公民分野】 4 (2点)

解説 親等は、本人から該当する人物までの間の世代数を計算すればよい。例えば、Iさんから見てIさんの祖父母は、Iさんと両親の間で一世代、Iさんの両親とその両親(Iさんの祖父母)の間で一世代の合計二世代と数えられ、2親等となる。同様に数えると、Iさんの親せきのお兄さんの親等は、次のようになる。



$$1 + 1 + 1 + 1 = 4$$

答え 4親等

問 5 【地理分野】 (1) 和同開珎 (3点)

解説 広域に流通した日本最古の貨幣名を答える問題である。日本で製造された最古の貨幣と有力視されている富本銭と迷うところであるが、文中の「漢字4文字」という言葉を頼りにすれば、解答は容易である。

【歴史分野】 (2) 菅原道真 (3点)

解説 遣唐使を廃止した人物を答える問題である。基本問題であるが、「菅」を「管」、「真」を「実」と間違える受験生が多かった。漢字表記に十分注意したい。

問 6 【地理分野】 琉球王国 (3点)

解説 首里城は、1879年に沖縄県が置かれるまで琉球王国の王城として栄えた。沖縄県内で最大の木造建築物で、赤い瓦に中国風の造りをした独特の様式をしている。2000年に世界文化遺産に登録された。

問 7 【歴史分野】 (1) イウア (3点)

解説 元号とは、年数を数えるために年につける称号である。中国から伝わった慣習で、日本では明治時代以降、天皇一人につき一つの元号を使用するようになった。

- 【歴史・公民分野】 (2) ア (3点)
 解説 一見すると、大日本帝国憲法についての細かな内容が問われているように見える。だが、憲法が国を治める上での基本原則を定めた法律であるということを考えれば、「ア」が不正解である。憲法という原則がなければ、国会を運営することはできない。
- 問 8 【公民分野】 (1) インフレーション(インフレ) (3点)
 解説 新聞やニュースなどでもよく取り上げられる言葉である。物価が下落した状態を、デフレーション(デフレ)と呼ぶことも、あわせて知っておきたい。
 【公民分野】 (2) お金が増え続けると、お金の価値が下がるから。 (5点)
 解説 価値は、そのものの数で変化する。数が多くなれば値打ちが下がり、少なくなれば値打ちが上がる。紙幣も同じで、発行し続けると数が増えて価値が下がる。価値が下がった分、今までより多くの紙幣を払う必要が生じ、相対的に物価が上昇した状態となる。
 【公民分野】 (3) 銀行{の銀行} (3点)
 解説 日本銀行は、日本の通貨制度の中心的機関である。日本銀行券を発行する独占権をもっているため「発券銀行」と呼ばれたり、政府にかかわって税金などの管理を行うことから「政府の銀行」と呼ばれたりもする。
- 問 9 【地理分野】 イ (3点)
 解説 キジは、昔から日本に深い関わりをもつ野鳥として『桃太郎』をはじめ色々な物語に登場する。「頭隠して尻隠さず」ということわざも、追われて草むらに隠れたつもりになったキジの様子に由来している。
 【歴史・地理分野】 (1) 大韓民国(韓国) (3点)
 解説 朝鮮戦争の際、北朝鮮をソ連・中国が、韓国を連合国が支援した。
- 問 10 【歴史分野】 (2) 邪馬台国 (3点)
 解説 基本問題である。「魏志」倭人伝に、邪馬台国に関する記載が残されている。漢字で表記できるようになっておきたい。
- 問 11 【公民分野】 ウ (3点)
 解説 平成 24 年 9 月に厚生労働省が発表した資料によると、2010 年度の雇用者に占める正規雇用者の割合は男女別に、男性が約 81%、女性が約 54%であった。結婚や出産、育児などをきっかけに退職し、再就職の際は、非正規雇用者になる場合が多いためである。
- 問 12 【歴史分野】 (1) イ (3点)
 解説 世界史分野の設問ではあるが、ダーウィンの進化論は一般常識としてよく知られている。『種の起源』という著書の中で述べた、生物が進化してきたという学説である。
 【公民分野】 (2) 観光客(ほか、輸出など) (3点)
 解説 円安とは、対象物に対して円の価値が低くなったことである。つまり、ポンドと日本円を交換する場合、価値が低くなった日本円は今までより多く支払われなければならない。イギリス人の立場からすれば、手持ちのポンドをより多くの日本円と交換できるため、円高の時よりも安価に観光できる状況となる。
- 問 13 【地理分野】 (1) 解答例： 南半球に位置するニュージーランドでは、 (5点)
季節が日本とは逆になり、夏に向かうため。
 解説 地球は、地軸を 23.4 度傾けて太陽の周りを 1 年かけ公転している。このため、北半球が太陽に向けて傾く夏の季節では南半球は冬に、北半球が太陽と逆の方向に傾く冬の季節では南半球は夏になる。解答例に示した ~ が 1 つでも抜けていれば減点とした。
 【地理分野】 (2) ア (3点)
 解説 オセアニア州は、太平洋に位置している。
- 問 14 【歴史分野】 (1) イエズス会 (3点)
 【公民分野】 (2) エ (3点)

解説 ブラジルという国名は、この地を発見したポルトガル人のカブラルに由来している。
1500年、アジアに向かう航海で嵐にあい、漂流した先が現在のブラジルであった。

問 15 【歴史・地理分野】 奴隷（どれい） (3点)

問 16 【地理分野】 (1) エ (2点)

解説 しまなみ海道は、愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ海道である。このことを知らなくても、明石市は兵庫県、別府市は大分県、鳴門市は徳島県と、愛媛県今治市から橋が伸びるにあたって、距離や方角に無理が生じることから判断できる。

【地理分野】 (2) イ (2点)

解説 愛媛県は一年を通して温暖で晴れの日が多く、畑の土も水はけがよい。

【歴史・地理分野】 (3) ウ (2点)

解説 長野と金沢のある位置から考えれば、北陸が一番ふさわしいことは容易にわかる。ただし、五畿七道など旧道名については、一般常識として知っておきたい。

【地理分野】 (4) 奈良県（ほか、和歌山県） (3点)

解説 三重県も新幹線が通らないが、二府四県には入らない。

問 17 【歴史・地理分野】 (1) ウ (3点)

解説 造幣局が大蔵省に所属していたという文章から、財務省を選ぶことは容易であろう。ただし、主な省庁については一般常識として知っておきたい。

【公民分野】 (2) 解答例：消費税率が5%から8%に変更されたため。 (5点)

解説 2014年に、1円玉の利用頻度が増えると考えられた理由を答える問題である。「2014年」と年代が指定されていることから、消費税率の変化に気付くことは容易であろう。採点基準としては、消費税率の変化に加え、具体的な数字が記載されていなければ減点とした。

【歴史分野】 (3) 太平洋{戦争} (3点)

解説 1941年からはじまった太平洋戦争では、連合軍によって都市部への空襲が行われた。特に、大都市への空襲は激しく、造幣局のある大阪もその対象となった。解答欄に当てはまるように表記しなければならないため、第二次世界大戦は減点とした。

【出題のねらい】

2014年は、現行の五千円札が発行されてちょうど10周年を迎えた年である。1994年の発行当初、五千円札は初めて紙幣の表面に女性の肖像が採用されたことで大きな話題となった。よって、本校が女子の進学校であることから、本日程の会話文では「女性の活躍」を貨幣の面から取り上げた。小学校の学習範囲ではない世界地理に関する問題が数問出題されているのも、「グローバル社会で活躍する人材育成」という本校の教育方針に基づいたものである。出題のねらいとしては、社会の基礎学力を確認するため、一般常識や基本的な知識を問う問題を多く出題した。さらに、思考力や粘り強さを見るため、文中の語句や持っている知識を活用することで解答を導ける問題も多数出題した。

【講評】

「基礎への取り組み」が、受験生の力の差となって現れたように思う。まず、漢字間違いである。今回の試験では、問1(2)や問5(2)のように、漢字を間違えやすい語句を問う問題が多く出題された。ひらがなでも点数には繋がる（減点対象）が、設問によっては漢字指定の場合もある。学習の際は正確に書いているかにも気を配りたい。次に、語句そのものへの理解である。例えば、問7(2)は歴史の流れを知らなくても、憲法とは何なのかを考えれば解答できる問題である。普段何気なく聞いたり使ったりする言葉でも、「そもそも何だろうか」と理解を深めることを日頃から心がけてほしい。「なぜ」「何」という疑問を持ち、それらを解決する過程の中で、理解する力や思考力も養われていく。

どれだけ難しいことを勉強してきたかではなく、基礎的な知識に向き合う姿勢を大切にして勉強してほしい。